

PRESS RELEASE

2024年10月吉日

特別展

日本美術の 鋤脈

未来の 国宝を探せ！

2025

6/21 sat ▶ 8/31 sun

主催：大阪中之島美術館、日本経済新聞社、

NHK大阪放送局、NHKエンタープライズ近畿

監修：山下裕二(明治学院大学教授) 企画協力：広瀬麻美(浅野研究所)



大阪中之島
美術館

NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA

開館時間、休館日、観覧料、展示期間等の情報は確定次第、
展覧会公式サイト等でお知らせします。



日本美術の鉱脈

未来の国宝を探せ！

近年、「日本美術ブーム」ともいべき状況が続いています。かつては、西洋美術に比べて人気がなかった日本美術。しかし、世紀の変わり目あたりから状況は徐々に変わってきました。そんな「日本美術ブーム」を牽引してきたのは、間違いなく江戸時代の画家、伊藤若冲（1716～1800）です。

2000年に京都国立博物館で開催された「没後200年 特別展 若冲」をきっかけとして、空前の「若冲ブーム」が巻き起こり、2016年に東京都美術館で開催された「生誕300年 記念 若冲」展には、なんと46万人もの観客が詰めかけたのです。しかし、そんな若冲も、2000年以前には一般の人々にとっては日本美術の「知られざる鉱脈」でした。

2000年代以降、有名な作品が数多く展示されるような日本美術の展覧会には、何十万人もが詰めかけるようになりました。コロナ禍が終息した今後、日本美術に対する注目度はますます高まっていき、国宝、重要文化財などを多数展示する展覧会が続々と企画されています。

しかし、この「日本美術の鉱脈 未来の国宝を探せ！」展は、すでによく知られた作品を呼び物として企画するものではありません。これまでほとんど注目されていないもの、一部の研究者は熱心に研究しているものの、一般の方々にはほとんど知られていないものなど、「知られざる鉱脈」としての日本美術を、多くの人々に観ていただきたいという思いで企画した展覧会です。

縄文から現代まで、出品作の時代、ジャンルは多岐に及びます。たとえば、縄文土器。ようやく1990年代からいくつかが国宝指定されましたが、ほかにも指定されるべき作品はたくさんあります。室町時代の絵画にも、一般には知られていないものの、きわめて個性的で魅力的な作品があります。そして、江戸時代の絵画は、若冲をはじめとする「奇想の画家」の発掘はずいぶん進みましたが、それでもまだほとんど知名度がない素晴らしい作品が多数あります。さらに、明治時代以降の絵画、工芸には、「知られざる鉱脈」がたくさん眠っています。

その鉱脈を掘り起こし、多くの方に見ていただき、観客の方々のご自分の眼で「未来の国宝」を探していただきたいという思いで、この展覧会を企画しました。大阪・関西万博が開催される2025年。その機会に、さらに多くの人々に日本美術の魅力を発信したいと考えています。

山下裕二（本展監修者、明治学院大学教授）

企画概要

名称	日本美術の鉱脈 ―未来の国宝を探せ！
会期	2025年（令和7年）6月21日（土）～8月31日（日）【65日間】 [参考] 大阪・関西万博 2025年4月13日（日）～10月13日（月）
会場	大阪中之島美術館 4階展示室
主催	大阪中之島美術館、日本経済新聞社、NHK大阪放送局、NHKエンタープライズ近畿
監修	山下裕二（明治学院大学教授）
企画協力	広瀬麻美（浅野研究所）

展示期間が限られる作品があります。情報は確定次第、展覧会公式サイト等でお知らせします。



伊藤若冲

「釈迦十六羅漢図屏風」

デジタル推定復元 2024年 八曲一隻

TOPPAN 株式会社制作

枘目の埋め方は
9つのパターンがあり、
盛り上げた
立体的な表現も再現！



若冲
幻のモザイク屏風を
復元

戦災によって焼失したと思われる、
現在では小さな白黒図版のみが残る屏風。
最新のデジタル技術と
学術的知見の融合で復元されました。

若冲ら 奇想の画家

今世紀に入るまで、かつては一般の人々にとって
「知られざる鉱脈」であった若冲。
いまでは日本美術ブームを牽引する作家となりました。
展示の序章として日本美術のスーパースターとなった
若冲、蕭白、芦雪ら奇想の画家の作品を紹介します。

極彩色の武士 vs 妖怪

近年の新発見作。
画面右側のユーモラスな妖怪軍が
武士たちに退治される様が
極彩色で描かれています。



伝岩佐又兵衛

「妖怪退治図屏風」

江戸時代(17世紀) 八曲一隻 紙本着色



若冲、応挙 初の合作新発見

これまでまったく類例がない、伊藤若冲と円山応挙がそれぞれ一隻ずつを手がけた二曲一双屏風です。若冲は竹に鶏、応挙は梅に鯉を金地に水墨で描き、いずれも画家がもっとも得意とした画題。しかも、金箔の質もまったく同一です。おそらく、発注者が金屏風を仕立て、若冲と応挙にそれぞれ画題を指定して依頼したのだらうと思います。

新発見



伊藤若冲「竹鶏図屏風」

寛政2年(1790)以前 二曲一隻 紙本金地墨画



円山応挙「梅鯉図屏風」

天明7年(1787) 二曲一隻 紙本金地墨画

現存作品はわずか10点ほど。
明兆の弟子で朝鮮に渡ったことは知られますが、伝記はほとんどわからない霊彩。
伝記や生没年すら謎に包まれた
謎の絵師・式部輝忠など、
極めてシャープな筆致でセンスが際立つ
エキセントリックな造形感覚の
室町時代の絵師たちを紹介します。

室町水墨画



雪村周継
「瀟湘八景図帖」より
「山市晴嵐」

室町時代(16世紀)
画帖8面 紙本墨画
福島県立博物館

ヒリヒリするような 神経質な線描

雪村は16世紀、戦国時代に関東で活動した画僧で、常陸の戦国大名・佐竹氏の息子として生まれながら、家督を継ぐことなく画僧として生涯を貫きました。極端にねじ曲げられた樹木や神経質な線描。中国の名勝・瀟湘八景を描いた8図が貼り込まれた雪村最初期の画帖です。

重要文化財

式部輝忠 「巖樹遊猿図」

室町時代(16世紀)
六曲一双 紙本墨画
京都国立博物館

南宋時代の画僧・牧谿にならった
柔らかみのある筆遣いで描かれた
16世紀の画家・式部輝忠による屏風作品。
水面の月を取ろうとしたり、エビを捕まえようとするたりする
擬人化された可愛い表情の猿たちが画面に広がります。



絵に反し詞書は別人で達者

山から人夫たちが土砂を懸命に運ぶ

人柱にされる人々が捕らえられている



平清盛が新都福原の沖に築港する際、
工事がはかどらないため30人の人柱を立てることになります。
その時、清盛の侍童松王が一人身代わりになり海に沈み、
築島（人口島）は完成したという伝説が上下二巻にわたり描かれた絵巻です。

「築島物語絵巻」

室町時代(16世紀)
卷子(二巻) 紙本着色 日本民藝館

壬生寺での 猿の見世物



不合理な形態の 二条城



素朴絵

15、16世紀、世界的にもいち早く
イノセントな幼稚美を愛でた日本。
素朴絵はその日本の美術史が生んだ
魅力的なオリジナルテイの
表現のひとつです。



長谷川巴龍 「洛中洛外図屏風」

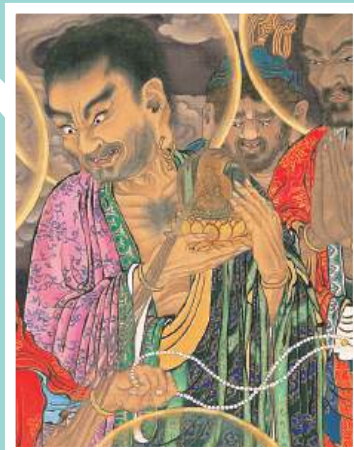
江戸時代(17世紀)
六曲一隻 紙本金地着色

京都の南東上空に視点をおいて、市中をぐりと見渡したような構成をとる素朴画。
定形の洛中洛外図の左右両隻を一隻に合体させた、極めて珍しい構図です。
なんと稚拙な描写ですが、金箔も絵の具もきわめて上質です。

幕末・明治

陰影表現など西洋画からの影響が
未消化であるがゆえに
かえって不思議な魅力ある絵画、
また近年再評価が進む
超絶技巧による工芸を紹介します。

長らく芝の増上寺に秘蔵されてきた
100 幅から成る五百羅漢図。
伝統的な羅漢図を踏まえながらも、
北斎や国芳らの劇的な描写に感化された作品。
大蛇や猛獣の口から吹き出される地獄の炎を、
楓の団扇を持った羅漢が
巻き起こす風で消し飛ばそうとしています。



羅漢ビームが放たれ、
地獄に堕ちた人々が
救いを求めます

原田直次郎
「素戔鳴尊
八岐大蛇退治画稿」

明治28(1895)年頃
油彩、カンヴァス 岡山県立美術館



カンヴァスを突き破り、
犬が頭を出す。

日本の神話を油彩画で描いた作。
スサノオノミコトがヤマタノオロチを
退治する場面が描かれます。

狩野一信

「五百羅漢図 第22幅 六道・地獄」

江戸時代(19世紀) 一幅 絹本着色 増上寺

初代宮川香山
「崖ニ鷹大花瓶」

明治9(1876)～明治15(1882)年頃
横浜・宮川香山 真葛ミュージアム



器体に立体的な動植物の装飾を施した
高浮彫と呼ばれる技法を駆使した、
高さ**52**センチもある大型の一对花瓶です。

不染鉄、牧島如鳩など、
近代絵画史において
他に類例のないユニークな表現で
注目を集めつつある作家を紹介します。

大正から昭和



不染鉄 「山海図絵」

大正14(1925)年 紙本着色
公益財団法人 木下美術館

中央に富士・裾野の町、
下には太平洋と海辺の町、
そして上部には白く輝く富士山と
雪が降り積もる日本海側の町という、
現実にはあり得ない構図の大作です。
俯瞰構図と細部描写の混在が
独創的な世界を作り出しています。

キリスト教伝教者が 描く仏画

ハリストス正教会の伝教者として聖像を描くイコン画家だった如鳩。
その後深く仏教にも帰依し最終的には
神も仏もひとつであるという立場に至りました。
福島県の小名浜の大漁祈願のために描かれた神仏共存の大作。
福島県いわき市の小名浜漁協所蔵でしたが、
東日本大震災の2年前に足利市立美術館へ寄託され難を逃れました。

牧島如鳩「魚藍観音像」

昭和27(1952)年 油彩、カンヴァス
足利市民文化財団

魚藍観音が
イワシの稚魚が入った器を
持ち坐る

聖母マリアや天使

菩薩と天女



エレガントな感性による 洗練された造形

丁寧な器面調整と曲線文様の割り付けが見事で、
均整の取れた美しさを持つ大型土器。



重要文化財
「深鉢型土器」
山梨県殿林遺跡出土
山梨県立考古博物館

重要文化財 「人体文様付有孔罎付土器」

鋳物師屋遺跡出土 山梨・南アルプス市教育委員会
(南アルプス市ふるさと文化伝承館)



縄文の ちびまる子ちゃん

3本指でピースサインをし
踊っているかのようなポーズの
土偶がレリーフ状に貼り付いた縄文土器。

縄文土器として現代美術へ

先史時代に世界中でつくられた土器の中でも、
造形のバリエーションの豊かさが傑出する縄文土器。
展覧会のフィナーレは
情熱ほとばしる火焰型土器とは異なる、
縄文独特のうねるようなモチーフを
リズミカルかつエレガントに
調和させた表現の縄文土器を紹介します。
一万年以上続いた縄文時代を一括りにすることで
見落としがちな造形の多様性を検証します。

1995年生まれの岡崎龍之祐。

縄文土器のうねるような曲線や装飾性からインスピレーションを得た、
纏うことを目的としないコスチュームを生み出しています。

縄文時代から現代まで続く「祈り」
そして生きることに對する願いを込めた新作を発表します。



[参考画像]

岡崎龍之祐「JOMONJOMON」 2021年